

都市再生整備計画 事後評価シート  
八幡中央地区

令和3年3月

岐阜県郡上市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岐阜県		市町村名	郡上市		地区名	八幡中央地区			面積	105ha		
交付期間	平成27年度～平成31年度		事後評価実施時期	令和2年度		交付対象事業費	1,591.7百万円	国費率	0.45				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設:ポケットパーク整備事業、防災設備整備事業 / 高質空間形成施設:道路修景整備事業、電線類無電柱化整備事業 / 高次都市施設:積翠荘跡地利用整備事業										
		提案事業	地域創造支援事業:由緒書整備事業、水のまちづくり推進事業、積翠荘跡地利用整備事業 / 事業活用調査:事業効果分析調査 / まちづくり活動推進事業:市街地交通対策事業、防災対策基本構想ワークショップ開催										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	—		削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業	—										
	新たに追加した事業	基幹事業	高質空間形成施設:街路灯整備事業		電線類無電柱化整備事業の中に含めていたが、独立した事業とした。				当初計画に含まれていた内容のため、影響なし				
提案事業		—											
交付期間の変更	当初	—		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響				—					
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	町並みの美しさに関する住民満足度	点	0.71	H26	0.90	H31		0.67	△	あり なし	事後評価実施時点で一部事業の効果を見込で算出したことなどから、従前値を下回る結果となった。	令和3年度
	指標2	災害に対して不安を持つ人の割合	%	37.7	H26	30.0	H31		25.3	○	あり なし	基幹事業、提案事業、関連事業を着実に実施したことで、目標値を上回る成果が見られた。	—
指標3	八幡中心市街地の人口の転入超過数	人	-18	H26	±0	H31		-39	×	あり なし	指標数値に直接影響を及ぼす事業がなかったことから、従前値を下回る結果となった。	令和3年度	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	まちなかに賑わい・活気がないと答えた人の割合	%	32.2	H26				28.9			道路空間の高質化は通り全体の雰囲気を良くし、空き店舗利活用支援なども相まって、町に賑わいや活気を与える一助となったことが想定される。	—
	その他の数値指標2	—											
その他の数値指標3	—												
4)定性的な効果発現状況	市街地交通対策事業において交通社会実験を実施したことで、市民の間で問題意識の醸成と規制誘導等の交通対策施策への関心が高まり、良好な町並み景観を形成するための要素のひとつでもある交通環境の改善に向けた足掛かりとなった。												
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等		
	モニタリング	—				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					—		
	住民参加プロセス(抜粋)	防災ワークショップにおける住民参画				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● アフターコロナを見据えた住民参加の在り方を検討し実践していく。		
	持続的なまちづくり体制の構築	郡上八幡市街地まちづくり会議の取り組み				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● 計画では郡上八幡市街地まちづくり協議会(通称:まち協)との持続的な協力体制維持によるまちづくりを記載していたが、新たに八幡地域協議会の市街地部会として組織された郡上八幡市街地まちづくり会議で、積極的な取り組みが行われており、持続的なまちづくり体制が構築されている。今後は、あらゆるまちづくり組織と幅広く連携を取りながら事業を計画実施していく。		

## 様式2-2 地区の概要

八幡中央地区(岐阜県郡上市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標: 郡上八幡ならではの「本物」の歴史・文化を継承し、その魅力が人を惹きつける賑わいのあるまちづくり 目標1: 郡上八幡を特徴付ける歴史的町並み景観を保存・再生し、交流促進による地域活性化を図るとともに、住民が誇りと愛着を持って暮らせる住環境を整える。 目標2: 防災対策や安全な歩行者交通環境を整えることで、安心して住み続けられる住環境の向上を図る。 目標3: 郡上八幡ならではの歴史的な水利用資源や伝統工芸等の歴史文化を継承し、その「本物」としての魅力を発信することで、郡上八幡ファンづくりとUターン・Iターン等による定住化を促進する。	町並みの美しさに関する住民満足度 単位: 点	0.71 H26	0.90 H31	0.67 R2
	災害に対して不安を持つ人の割合 単位: %	37.7 H26	30.0 H31	25.3 R2
	八幡中心市街地の人口の転入超過数 単位: 人	-18 H26	±0 H31	-39 R2

**防災ワークショップ実施状況**

**由緒看板 整備後**

**交通社会実験の概要パンフ**

**水のまちづくり推進事業 (圧送ポンプ施設)**

**郡上八幡駅周辺整備後の全景**

**郡上市歴史資料館(企画展)**

**ポケットパーク整備**

**積翠荘跡地利用整備事業 「郡上八幡まちなみ交流館」(左) 外観、(右) 展示室**

**道路修景整備**

**伝建地区の無電柱化 (入線待ち、R3年度完成予定)**

**まちの課題の変化**

- ・防災ワークショップの開催や防災設備(耐震性貯水槽等)の整備が進み、火災に対する不安を軽減する効果が見られた。
- ・道路面の再整備や無電柱化整備により町並み景観の向上が図られているが、伝建地区以外にも多く残る歴史的価値のある建造物に付加価値を与え、修理・修景を活発化させる支援策が必要である。
- ・交通社会実験により市民の間で問題意識の醸成と施策への関心が高まっており、20数年來の課題である駐車場対策と合わせて、交通対策は今後のまちづくりにおける大きな課題である。

**今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)**

- 効果を持続させるための方策
- ・引き続き、道路空間の美装化、高質化を推進する。
- ・策定した交通対策計画に基づき、住民形成のもと必要な施策を順次実施する。
- 課題の改善策
- ・指標3は、算出方法が複雑かつ事業との関連付けが困難であったが、フォローアップにより検証をおこなう。
- ・センター施設(郡上八幡まちなみ交流館)の住民及び観光客への周知活動を積極的に実施し、施設の利用を促進する。
- 住民参加の継続
- ・引き続き、まちづくり団体と協力のもと住民参加の手法を積極的に取り入れた事業推進を図る。

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1ー① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	—								
公園	—								
河川	—								
下水道	—								
駐車場有効利用システム	—								
地域生活基盤施設	(緑地) ポケットパーク整備事業	10.5	N=1箇所、A=60㎡	22.9	N=1箇所、A=150㎡	詳細設計成果による整備面積拡大及び事業費の増	影響なし	●	
	(耐震性貯水槽) 防災設備整備事業	65.0	耐震性貯水槽3基 (100t、100t、40t)	54.3	耐震性貯水槽3基 (100t、100t、40t)	実績による事業費の減	影響なし	●	
高質空間形成施設	(カラー舗装) 道路修景整備事業	100.0	L=570m	98.8	L=650m	地元代表者会議を設置し実施した 詳細設計成果による整備延長の 増、実績による事業費の減	影響なし	●	
	(照明施設) 街路灯整備事業			69.8	N=50基	電線類無電柱化整備事業から分割 追加、詳細設計成果による事業費 の増(24.6→69.8百万円)	影響なし		●
	(無電柱化整備) 電線類無電柱化整備事業	1,174.4	本体L=1.24km 連系L=0.33km	1,097.2	本体L=1.54km	街路灯整備事業を分割	影響なし		●
高次都市施設	(観光交流センター) 積翠荘跡地利用整備事業	200.0	A=520㎡	110.0	A=520㎡	構想策定による施設規模の縮小及び 事業費の減	影響なし	●	
既存建造物活用事業	—								
都市再生交通拠点整備事業	—								
土地区画整理事業(都市再生)	—								

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1ー② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
住宅市街地 総合整備事業	—								
地区再開発事 業	—								
バリアフリー環 境整備事業	—								
優良建築物等 整備事業	—								
住宅市街地 総合整備 事業	—								
街なみ環境整 備事業	—								
住宅地区改良 事業等	—								
都心共同住宅 供給事業	—								
公営住宅等整 備	—								
都市再生住宅 等整備	—								
防災街区整備 事業	—								

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	由緒書き整備事業	8.1	歴史的風致に関する 看板整備	9.0	歴史的風致に関する 看板整備	設計成果による事業費の増	影響なし	●	
	水のまちづくり推進事業	45.0	既存施設高質化、新 たな水利用施設整 備	40.0	既存施設高質化、新 たな水利用施設整 備	事業精査による事業費の減	影響なし	●	
	積翠荘跡地利用整備事業	200.0	A=520㎡	55.0	A=520㎡	構想策定による施設規模の縮小及 び事業費の減	影響なし	●	
事業活用調査	事業効果分析調査	2.0	事後評価関連調査	2.0	事後評価関連調査	—	影響なし		●
	—								
	—								
まちづくり 活動推進事業	市街地交通対策事業	12.0	交通社会実験の実 施、交通対策計画の 策定	25.1	交通社会実験の実 施、交通対策計画の 策定	交通実態調査に係る事業費の増	影響なし	●	
	まちづくりフォーラム開催	1.0	N=1回	1.0	N=1回	—	影響なし		
	防災対策基本構想ワークショップ	5.0	3回/年、3年間で対 象地区全て実施	6.6	3回/年、3年間で対 象地区全て実施	事業費の精査による増	影響なし	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画			
長良川鉄道郡上八幡駅舎周辺整備事業		長良川鉄道郡上八幡駅舎周辺	85.0	188.3	平成27年度～平成28年度	平成27年度～平成28年度	計画通り竣工し、鉄道玄関口 と公共交通バス拠点、観光案 内所として機能している。		
防災対策マニュアル策定事業		整備地区対象区域内	1.0	0.7	平成27年度～平成29年度	平成27年度～平成29年度	計画通り防災ワークショップと 並行実施によりマニュアル配 布し、防火啓発に繋がった。		
郡上市歴史資料館整備事業		整備地区対象区域内	—	661.6	—	平成28年度～平成29年度	計画通り竣工し、企画展を通 じ市民の文化意識の醸成に 役立っている。		



添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度	基準年度	従前値	従前値	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	事後評価	事後評価	あり	なし		
指標1	町並みの美しさに関する住民満足度	点	—	—	0.71	H26	0.90	H31	モニタリング			モニタリング			●	
									事後評価	確定	見込み	●	0.67	事後評価		
指標2	災害に対して不安を持つ人の割合	%	—	—	37.7	H26	30.0	H31	モニタリング			モニタリング			—	—
									事後評価	確定	見込み	●	25.3	事後評価		
指標3	八幡中心市街地の人口の転入超過数	人	—	—	-18	H26	±0	H31	モニタリング			モニタリング			●	
									事後評価	確定	見込み	●	-39	事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	町並み景観の向上に繋げる事業として、電線類無電柱化整備事業、道路修景整備事業等を計画・実施したが、景観向上の効果が大きいと考えられる無電柱化整備について、抜柱が完了していない段階での実績値計測(アンケート調査)となったこと、また、従前値計測時は景観計画策定や郡上八幡市街地まちなみづくり町民協定の期間延長直後であったことが、数値を下げた理由として考えられる。アンケート結果では無電柱化整備事業で町並み景観の向上に期待できるという設問に対し74.9%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答しており、現時点でも、無電柱化事業への評価は高く、今後、無電柱化事業が完成し、景観計画の見直しや町民協定の期間延長などに取り組む予定があり、目標達成は近いと思われる。	無作為抽出によるアンケート調査結果から導き出しており、選ばれる対象者によりある程度の変動があると思われる点が指標設定における課題として残った。
指標2	市街地南部の水利不足地帯に、3基の耐震性貯水槽及び島谷用水からの圧送ポンプで導水する施設を整備し水利充実を図ったこと、防災ワークショップを開催し、地区単位の火災対策マニュアルを作成、全戸配布したことで、災害に対して不安を持つ人の割合が減少し、目標値を上回る結果となった。	無作為抽出によるアンケート調査結果から導き出しており、選ばれる対象者によりある程度の変動があると思われる点が指標設定における課題として残った。
指標3	大半が市外への転出超過という結果であり、その傾向として進学・就職時期の異動が多いが、これは高校卒業後に通える進学先が少ない本市ならではの自然増減と似た現象と捉えられる。気になった点は、郡上市八幡町内で整備計画区域内から整備計画区域外への転居者(出)が多く見られたことである。いずれにしても、自然増減を除いても1年以内に転出超過を転入超過へ導くのは困難である。	手作業による計測方法となる区域内に絞った異動人数から効率的な統計が可能な手法が可能な指標の検討や、転出入者理由も含めて把握することで事業評価に直結可能な指標設定にするなどの工夫が必要がある。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)	
				基準 年度		基準 年度						
その他の 数値指標1	まちなかに賑わい・活気がないと答えた人の割合	%	—	—	32.2	H26	モニタリング			28.9	道路修景整備事業を実施した今町～新町では、近年、飲食店、小売店の新規出店が目立つため、道路空間の再構築が「賑わい・活気がないと思う人の割合減少」に寄与したと考えることが可能なため。	無作為抽出によるアンケート調査結果から導き出しており、選ばれる対象者によりある程度の変動がある。
							事後評価	確定 ●	見込み			
その他の 数値指標2	—						モニタリング					
							事後評価	確定	見込み			
その他の 数値指標3	—						モニタリング					
							事後評価	確定	見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・市街地交通対策事業において交通社会実験を実施したことで、市民の間で問題意識の醸成と規制誘導等の交通対策施策への関心が高まり、良好な町並み景観を形成するための要素のひとつでもある交通環境の改善に向けた足掛かりとなった。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
—	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
防災ワークショップの開催における住民参画	予定どおり実施した ● 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	【実施年度】平成27年度～平成29年度 【対象地区】区域内地区会単位 39地区 【実施頻度】年3回 【実施結果】火災防災を対象に、自助、共助、公助について話し合い、各地区の課題や取り組みを整理し、地区別の火災対策マニュアルとして取りまとめ、配布することで、防災意識向上に繋がった。	アフターコロナを見据えたワークショップの在り方を検討し実践していく。
市街地交通対策事業における住民参画	予定どおり実施した ● 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	【実施年度】令和元年度(平成31年度) 【対象地区】整備計画区域内 【実施頻度】協議会3回、住民検討会4回 【実施結果】有識者や各種団体の長で構成する協議会、区域内の住民代表で構成する住民検討会を組織し、住民参画のもと、社会実験、交通対策計画策定を推進することができた。	社会実験の結果を市民と共有しつつ、具体的な施策の導入について引き続き住民参加のもと実施していく。
無電柱化整備における住民参画	予定どおり実施した ● 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	【実施年度】平成27年度～令和元年度(平成31年度) 【対象地区】整備対象となる地区会単位 6地区 【実施頻度】推進協議会2回(年平均) 【実施結果】詳細設計にあたり各地区3～4名の委員で構成する推進協議会を組織し、地上機器設置場所の確保、街路灯の整備計画、空き家所有者情報の共有など、住民参画を得ながら事業を推進することができた。	郡上市伝統的建造物群保存地区推進協議会を母体としており、今後においても伝建地区内で都市計画関係の事業を実施する際は、同協議会を母体として組織し事業推進を図る。
道路修景整備詳細設計における住民参画	予定どおり実施した ● 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	【実施年度】平成28年度 【対象地区】対象路線沿いの地区会単位 8地区 【実施頻度】代表者会議5回、地区別計画説明会5回 【実施結果】代表者会議で整備計画(案)を策定し、地区別説明会により幅広く住民意見を反映し成案化、最終的には地区回覧で周知し、十分な合意形成を図ったうえで事業を実施することができた。	今後においても、新たな美装化路線や道路空間の大幅なリニューアルを計画する際は、今回の手法を活かして事業推進を図る。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
郡上八幡市街地まちづくり会議の取り組み	予定どおり実施した	● 市街地の様々な課題に対応するため、住民アンケート実施、冊子「まちのコンパス」作成(年1回)、各種イベントの企画運営などのまちづくり事業を実施する他、市有施設である町屋敷越前屋の管理運営を担っている。このように、都市再生整備計画の大目標とした郡上八幡の歴史文化の継承、賑わいあるまちづくりについて、ソフトとハードで連動した活動が展開できている。	【組織名】 郡上八幡市街地まちづくり会議 【組織概要】 平成26年度に郡上市八幡地域協議会の市街地部会として組織され、その中で既存組織の郡上八幡市街地まちづくり協議会メンバーが活躍している。	計画では郡上八幡市街地まちづくり協議会(通称:まち協)との持続的な協力体制維持によるまちづくりを記載していたが、新たに八幡地域協議会の市街地部会として組織された郡上八幡市街地まちづくり会議で、積極的な取り組みが行われており、持続的なまちづくり体制が構築されている。今後は、まちづくり組織と幅広く連携を取りながら事業を計画実施していく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会 (郡上市歴史的風致維持向上計画庁内検討チーム)	都市住宅課、社会教育課	令和3年1月	都市住宅課 (都市再生整備計画事業主管課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2	その他指標1							
指標名		災害に対して不安を持つ人の割合	まちなかに賑わい・活気がないと答えた人の割合							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	
基幹事業	地域生活基盤施設・ポケットパーク整備事業	○	耐震性貯水槽整備による消防水利不足の改善、防災対策基本構想ワークショップの実施による防火啓発及び各地区防災マニュアルの作成配布を通じて、防火意識が向上し、目標値を上回る成果が見られた。	—	道路空間の再構築と高質化により、通り全体の雰囲気良くなり、並行して進められた空き店舗利活用支援なども相まって、町に賑わいや活気を与える一助となったことが想定される。					
	地域生活基盤施設・防災設備整備事業	◎		—						
	高質空間形成施設・道路修景整備事業	—		◎						
	高質空間形成施設・街路灯整備事業	—		—						
	高質空間形成施設・電線類無電柱化整備事業	△		—						
	高次都市施設・積翠荘跡地利用整備事業	—		—						
提案事業	地域創造支援事業・由緒書整備事業	—		—						
	地域創造支援事業・水のまちづくり推進事業	○		—						
	地域創造支援事業・積翠荘跡地利用整備事業	—		—						
	事業活用調査・事業効果分析調査	—		—						
	まちづくり活動推進事業・市街地交通対策事業	—		—						
	まちづくり活動推進事業・まちづくりフォーラム開催	—		—						
関連事業	まちづくり活動推進事業・防災対策基本構想ワークショップ開催	◎		—						
	長良川鉄道郡上八幡駅舎周辺整備事業	—	○							
	防災対策マニュアル策定事業	◎	—							
	郡上市歴史資料館整備事業	—	—							

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	歴史的価値が高いとされる木造家屋が密集する当地区においては、引き続き必要な防火対策を実施すると共に、他の災害対策と合わせた総合的な満足度向上を図る。	賑わい・活気がないと回答する人の割合がより一層低くなるよう、庁内連携を強化して総合的なまちづくりの展開を図る。		
-------	--	---	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標3									
指標名		町並みの美しさに関する住民満足度		八幡中心市街地の人口の転入超過数									
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類		
基幹事業	地域生活基盤施設・ポケットパーク整備事業	△	中心部の道路空間高質化など、町並み景観の向上に繋がる推進してきたが、最も効果を期待していた伝統的建造物群保存地区内の電線類無電柱化整備に関して評価時点で未完成であったこと、繰越事業の進捗やコロナ禍も相まってフォーラム開催を見送ったこと、また、近年、町家の建替えや取り壊し増えている状況が見受けられることから、従前値を下回る結果となった。	△	事業実施によるまち全体の魅力向上による効果を期待して指標を設定したが、指標に直接影響を与える事業がなかったことが、未達成となった大きな要因であった。								
	地域生活基盤施設・防災設備整備事業	—		—									
	高質空間形成施設・道路修景整備事業	△		△									
	高質空間形成施設・街路灯整備事業	△		—									
	高質空間形成施設・電線類無電柱化整備事業	△		△									
	高次都市施設・積翠荘跡地利用整備事業	△		—									
提案事業	地域創造支援事業・由緒書整備事業	—				—							
	地域創造支援事業・水のまちづくり推進事業	—				—							
	地域創造支援事業・積翠荘跡地利用整備事業	—				—							
	事業活用調査・事業効果分析調査	—				—							
	まちづくり活動推進事業・市街地交通対策事業	—		—									
	まちづくり活動推進事業・まちづくりフォーラム開催	—		—									
	まちづくり活動推進事業・防災対策基本構想ワークショップ開催	—		—									
関連事業	長良川鉄道郡上八幡駅舎周辺整備事業	△		—									
	防災対策マニュアル策定事業	—		—									
	郡上市歴史資料館整備事業	—		—									

※目標未達成への影響度

××：事業が効果を発揮せず、

指標の目標未達成の直接的な原因となった。

×：事業が効果を発揮せず、

指標の目標未達成の間接的な原因となった。

△：数値目標が達成できなかった中でも、

ある程度の効果をあげたと思われる。

—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。

分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。

分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。

分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	電線類無電柱化整備の早期完成を目指し、完成後におけるフォローアップ調査を実施する。また、改めて町並み保存に対する意識向上を図るため、今後において景観計画の見直し、町並みづくり町民協定(任意協定)の締結期間延長に取り組むことで、満足度が向上するよう努める。	事業との直接的な関連がない指標であり、個別の事業評価に結びつけられる指標を検討するなど今後においては計測方法の工夫などを試み、指標数値の改善が図られるよう努める。	
------------------	---	---	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会 (郡上市歴史的風致維持向上計画庁内検討チーム)	都市住宅課、社会教育課	令和3年1月	都市住宅課 (都市再生整備計画事業主管課)

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
・歴史的建造物およびその町並み景観に関する課題:本市は人口減少と高齢化が進行しているが、特に八幡中央地区はその動向は顕著となっている。高齢夫婦のみの世帯も多く、若年層の居住者が減少していることから、歴史的建造物の修理・修景意欲が低く、その結果、歴史的建造物の空き家化や空き地化が進んでいる。更に、張り巡らされた電線類や老朽化した道路面が良好な景観を阻害する要因となっている。	郡上八幡北町伝統的建造物群保存地区における無電柱化事業に着手(R3年度に完成見込)した。また、景観を阻害する老朽化した道路面の再整備が着実に進んでいる。	無電柱化整備の早期完成、若年層居住者の減少対策、歴史的建造物の修理・修景に対する支援	・無電柱化整備への関心が高まり、次の無電柱化整備に対する期待が高まっている。(事後評価アンケート調査結果より)
・防災面の脆弱性に関する課題:八幡中央地区は木造建築物が密集しており、道路幅員が狭いことも含め、火災に対して脆弱な状況となっている。一方で、これらの建物は歴史的価値が高いものも多いことから、地区単位での防災体制の強化や防災設備の充実が大きな課題となっている。	地区単位のワークショップ開催、火災対策マニュアル作成・配布による防火意識の向上及び耐震性貯水槽等の整備による防災設備の充実が図られた。	延焼防止帯の設定など更なる防火対策の推進、地区防災組織の活性化	・コロナ禍で閉館したセンター施設(郡上八幡まちなみ交流館)について、事後評価アンケート調査結果では住民や観光客に対する幅広い周知、アフターコロナへ向けた有効活用を求める声が寄せられており、今後の課題として捉えている。
・伝統文化の継承に関わる課題:少子高齢化やライフスタイルの変化等に伴う伝統文化に対する住民意識の低下、伝統的技術を身につけた人材の減少等により、祭りや工芸等の伝統文化の継承が困難になってきている。	直接寄与した事業は無いが、文化財部局により継続的な用具等購入支援が行われている。	人的継承に対する支援	・交通対策事業で交通社会実験や住民アンケートを実施した結果、ピーク時とオフピーク時の交通対策の使い分け、外周道路駐車場と中心部を結ぶ移動手段確保、車両流入経路上の狭隘道路における歩行者安全確保などの課題が浮かんた。(交通対策計画に基本的な考え方として記載)
・伝統的水利用の継承に関わる課題:生活のためにしつらえられた水屋、カマド、共同井戸や、水路の分水のためのセギ板等については、ライフスタイルの変化や組織の高齢化、人口減少により維持管理体制が弱体化し、設備の老朽化が進んでいる。	由緒看板整備により、伝統的水利用施設の価値を再認識するきっかけ作りとなった。	維持管理体制の弱体化と老朽施設への支援	
・観光客の増加等による交通面での課題:八幡中央地区は、城下町特有の都市構造から狭隘な道路が多く、また昨今の観光客の増加により、ピーク時にはパニック的な交通混雑が見られるようになっている。また、郡上八幡市街地中心部への観光車両の流入や、これを受けての民地の駐車場化により、更なる混雑を招く悪循環も見られる。	交通社会実験を実施したことで、問題意識の醸成と規制誘導等の交通対策施策への関心、気運が高まった。	(アフターコロナを見据えた)具体的な交通対策の導入検討	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	【町並み景観】 老朽化した道路面の再整備	街なみ環境整備事業を活用し、引き続き道路空間の美装化、高質化を推進する。	・街なみ環境整備事業の活用による計画的な道路美装化の推進
	【防災対策】 火災防災体制の充実	防災ワークショップの実施や防災設備の整備により災害に対して不安を持つ人の割合は大きく減少したが、更なる効果発現のため自助、共助、公助における必要な施策を推進する。	・自主防災組織との協働による延焼防止帯の設定、二方向避難路の設定、近隣事業所との火災発生時の支援協定の締結
	【交通対策】 社会実験結果を踏まえた具体策の実施	社会実験により住民の関心、気運は高まっており、交通対策計画に基づき実施可能な施策から徐々に推進していく。	・舗装色や外側線の工夫による歩行者動線の確保 ・十分な合意形成を図った上での規制誘導策の導入 ・大型駐車場への車両誘導システムの導入

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	【町並み景観】 無電柱化整備の早期完成	通信事業者による残りの入線工事、抜柱工事を進め、令和3年度中に完成することで、町並み景観の向上に資する当初の課題を解決(目標達成)する。	・無電柱化整備事業(市単独事業)による、通信事業者2社の入線及び切替工事、関係する全電柱の抜柱工事
	【指標3の検証】 人口転入超過数指標の実績値と事業効果の関連性に関する検証	指標3は、算出方法が複雑かつ事業との関連付けが困難であったが、評価委員会においても「転入出の理由の把握により個別の事業評価と結び付けが可能ではないか。」という意見もあったことから、フォローアップにより検証をおこなう。	・指標実績値と事業効果との関連性分析 ・個別の事業評価に結び付く指標の検討
	【アンケート調査結果より】 センター施設(郡上八幡まちなみ交流館)の有効活用	住民への周知を図るため、開館1周年記念事業の実施、企画展示の実施、複数施設と連携した広報誌の発行を計画し、観光客向けの利活用についても引き続き実施していく。	・開館1周年記念事業の実施、広報誌の発行 ・社会見学など団体観光客の休憩所提供 ・郡上踊り期間中の更衣室利用

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

- ・中心市街地を目指す人(市民、観光客)のための駐車場対策と路上駐車対策の必要性を求める意見あり。(事後評価アンケート調査結果より)  
→八幡都市計画マスタープランでも、交通対策の一環として課題に挙がっており、今後において必要な方策を検討する。
- ・数年来、整備計画区域内の中心市街地にスーパーマーケットが1軒も無い状態となっているため、買い物弱者支援を求める意見あり。(事後評価アンケート調査結果より)  
→撤退した時点から課題として挙げられており、改めて八幡地域の課題としてアンケート結果の庁内共有を図る。



添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。  
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	町並みの美しさに関する住民満足度	点	0.71	H26	0.90	H31	確定 見込み ●	0.67	△	あり ● なし	→	令和3年度	「町並みの美しさ・たたずまい」に対する満足度について、5段階評価の住民アンケート調査を実施。	
指標2	災害に対して不安を持つ人の割合	%	37.7	H26	30.0	H31	確定 ● 見込み	25.3	○	あり — なし —	→	—		
指標3	八幡中心市街地の人口の転入超過数	人	-18	H26	±0	H31	確定 ● 見込み	-39	×	あり ● なし ●	→	令和3年度	計画区域内に係る転入、転出、転居の計測を実施する。	計測方法の工夫、転入出の理由を可能な限り把握し、分析を行う。
指標4	—						確定 見込み			あり なし	→	—		
指標5	—						確定 見込み			あり なし	→	—		
その他の数値指標1	まちなかに賑わい・活気がないと答えた人の割合	%	32.2	H26			確定 ● 見込み	28.9			→	—		
その他の数値指標2	—						確定 見込み				→	—		
その他の数値指標3	—						確定 見込み				→	—		

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・事業と直結した数値目標は、しっかりと結果が伴っている。	・定量的指標は、実施事業と直接的な関連があり、算出方法が容易な数値を用いることで、わかりやすい評価に繋がる。
	うまくいかなかった点	・数値目標の算出方法が複雑かつ手間が掛かるものとなってしまった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・指標1、指標2は事業との紐付けが明確にできていた。	・事前評価時に数値目標と事業の紐付けを明確にしておくことで、モニタリングや事後評価時の円滑な評価実施に繋がる。
	うまくいかなかった点	・指標3はどの事業とも直接的な紐付けが無く、目標を達成していたとしても明確な根拠が示せないものになっていた。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・防災ワークショップ開催事業、市街地交通対策事業、電線類無電柱化整備事業、道路修景整備事業では、住民参加を促しながら実施することができた。	・今後においては、都市再生推進法人制度の活用なども検討が必要である。
	うまくいかなかった点	・コロナ禍ということもあり、フォーラムのような住民参加の場を計画実施できなかった。	
PDCAによる 事業・評価 の進め方	うまくいった点	・アンケート調査を取り入れ、事前、事後ともに、その時点の町の声を聞くことができた。	・アンケート調査サンプル数は、計画の区域、事業規模や内容に合わせた調整が必要と思われる。
	うまくいかなかった点	・繰越事業の進捗を待ったことで、事後評価の着手が遅れてしまった。	
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

### 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

予定なし(令和3年3月時点)

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市HP掲載	令和3年3月11日～3月23日	令和3年3月11日～3月23日	担当課への 電話、FAX、電子メール	都市住宅課 (都市再生整備計画事業担当課)
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	ケーブルテレビ文字放送 市役所窓口閲覧(都市住宅課)	令和3年3月11日～3月23日	令和3年3月11日～3月23日		

住民の意見	意見なし
-------	------

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	鶴田 佳子 岐阜工業高等専門学校教授(都市計画) 郡上市都市計画審議会 会長	令和3年3月25日	建設部都市住宅課	既存機関に依頼 (郡上市都市計画審議会)	既存機関に依頼 (郡上市都市計画審議会)
その他の委員	都市計画審議会委員 10名 ・郡上八幡市街地まちづくり会議会長 ・元大和中央地区まちづくり委員会副委員長 ・一級建築士 ・公募委員 ・市議会議員				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	— (方法書作成手引きに従い事後評価方法の流れは確認したが、作成は任意につき未作成)
	成果の評価	・事業内容と成果について、「交通対策事業に関する定性的効果発現は評価する。ただし、評価時の完成状況としては完成ではなく完成見込になるのではないか。」という意見があり、期間中は社会実験及び交通対策計画策定を事業内容として評価しており、具体的施策の導入に関しては今後のまちづくりの方策に記載した旨を説明し、理解を得た。 ・指標1について、「アンケートでは事業に対する良い評価を得られていることから、数値目標以外の効果として記載しても良いのではないか。」という意見があり、目標達成度〇△×の理由に追記することとした。 ・指標3について、「転入の理由を併せて把握する必要がある。」「移住者の集いには多くの人数が集まる。」等の意見があり、フォローアップ計画にも記載した通り、個別の事業評価に結びつけられる指標を検討するなど工夫をすることで理解を得た。
	実施過程の評価	・住民参加プロセスについて、「記載事項以外に多くの住民参加プロセスを確認できるため、追記してはどうか。」という意見があり、追記することとした。 ・持続的なまちづくり体制の構築状況について、「郡上八幡市街地まちづくり会議が組織され、住民主体でまちづくりに関する独自アンケート、冊子作成、町屋敷越前屋の管理運営などの取り組みを開始しているため、記載すべき。」との意見があり、追記することとした。
	効果発現要因の整理	・数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因について、「指標1の改善への貢献度×としている事業があるが、アンケート結果で良い評価を得ていることから、全て△とすべき。」との意見があり、事業の貢献度評価を全て△に修正することとした。また、積翠荘跡地利用整備事業を貢献度評価の対象事業とした理由を問われ、センター施設を整備することで①空地の解消による町並みの連続性確保、②施設は表と裏で伝建地区に繋がる場所に位置し町並みを紹介するパネル展示もあることから指標1の満足度向上に関連付けができると判断した旨を説明し理解を得た。
	事後評価原案の公表の妥当性	・特に無し。
	その他	・特に無し。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・まちの課題の変化(交通対策)について、「交通社会実験を実施して得られた新たな課題を記載してはどうか。」という意見があり、交通社会実験事後アンケート、交通対策計画から抜粋し、新たな課題として追記することとした。
	フォローアップ	・成績の評価において「転入の理由の把握により個別の事業評価と結び付けが可能ではないか。」という意見があり、フォローアップでは可能な範囲で理由の把握に努めることとした。
	その他	・特に無し。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・委員会意見を反映することで、妥当であると認められた。
その他	・本事業には含まれていないが、市街地交通対策として、「市街地駐車場は20数年来のまちの課題であり、今後においても様々な取り組みに期待する。」という意見があった。	

## (7) 有識者からの意見聴取

### 添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
—		
—		

有識者の意見	—
--------	---